

猪之鼻奨学会

編集発行者
公益財団法人
猪之鼻奨学会

千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号
〒260-8670 千葉大学医学部内
電話 043-226-2509 内線5024

創立 1915年(大正4年)

猪之鼻奨学会報 第19号 題字 井出源四郎(第八代千葉大学学長)

心のホームポジション

— ますますのご支援を
よろしくお願いいたします —

千葉大学大学院医学研究院 泌尿器科
教授 市川 智彦

この度、公益財団法人猪之鼻奨学会の理事を拝命いたしました。千葉大学医学部に「猪之鼻奨学会」があることは存じていたが、ウェブサイトをあらためて閲覧してみました。猪之鼻奨学会は、大正4年11月に大正天皇御即位御大礼を記念して創設され、法人登記は昭和21年9月25日に行われたとのこと。また、平成24年4月1日に公益財団法人への移行に伴い「公益財団法人猪之鼻奨学会」に変更され、平成26年3月には新のはな同窓会館に移転されました。

猪之鼻奨学会の目的は、医学および薬学の研究を奨励することにあります。具体的には、優秀な医学および薬学領域の研究者への研究補助、学生への学費の貸与などをはじめ、目的を達成するための事業を行うことにあります。平成25年度の事業報告では、1件30万円の研究助成金が千葉大学医学部関係者のみならず、薬学部や千葉県内の他大学在籍者にも交付されています。総額は150万円に及んでいます。

猪之鼻奨学会の財源は基本財産の利子と、医学部と薬学部との同窓ならびに関係者からの寄付金によります。しかし、近年の低金利政策により財団の経理は厳しい状況にあるとのこと。若手医師や研究者の研究意欲を高め発展を支援することは、千葉県のみならず我が国や世界の医学の将来のために最優先で取り組むべきことと思えます。その牽引役である猪之鼻奨学会の活動がさらに発展していけるよう、猪之鼻奨学会へのこれまでにも増してご支援を心よりお願い申し上げます。

亥鼻地区の

医療系学部としての薬学

千葉大学大学院薬学研究院
教授 千葉 寛

亥鼻の桜の蕾もほころび始め、新入生を迎える季節となつてまいりました。薬学部も西千葉地区からの移転が完了して4回目の春を迎えようとしています。薬学部の教職員と学生も亥鼻地区の環境に大分なじんできたように感じる今日この頃です。

ところで薬学部は薬剤師の育成を主な目的としていくように思われますが、本学部の場合、創業者の育成を旨とする4年制の薬科学科と高度な薬剤師の育成を目指す6年制の薬科学科の2学科からなります。薬科学科の卒業生には国家試験受験資格は認められておらず、そのほとんどが大学院修士課程に進学し、製薬企業等の研究職や開発職に就きます。一方、高度な薬剤師を目指す薬科学科の学生も、講義、実習、国家試験対策など多忙な時間の合同を縫って、足かけ3年間、実質的に2年間を駆け卒業研究を行います。中には、研究成果を国際学会で発表したり、研究成果を英文原著論文にまとめて卒業する学生もいます。研究に力を入れている点が本学薬科学科の特徴と言えます。

とはいえ、高度な薬剤師の育成や医療薬学に立脚した医薬品開発・創薬研究者の育成には医学部、看護学部、附属病院等のご協力が不可欠です。実際に博士課程教育リーダーング大学院プログラム、専門職連携教育(亥鼻IPE)、病院実務実習などを通じて連携が進んでいますが、今後さらに医学部、看護学部、附属病院との連携を進展させ、医療系学部としての薬学の存在意義を高めていかなくてはならないと感じています。

猪之鼻奨学会は医学及び薬学の研究を奨励することを目的として大正4年に創設されました。以来、長年にわたって、優秀な研究者への研究費の助成と経済的に困窮している学生への学費の貸与を行ってきました。是非、亥鼻学舎に学ぶ若き学徒と研究者達に、皆様の厚きご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ご寄付のお願いと寄付金の所得控除のお知らせ

猪之鼻奨学会は、大正4年(1915年)に創立されて以来、多くの方々からの善意の寄付金により奨学事業を実施してきております。

平成24年4月1日「公益財団法人」として、新たにスタートした猪之鼻奨学会は、「定款」に謳いますよう、医学及び薬学の研究を奨励することを目的として、研究事績の優秀な者に研究費の補助、そして学資の欠乏を告げた学生に学資の貸与を行ないます。これらの事業を遂行するために、どうか皆さまのご支援・ご協力を宜しくお願ひ申し上げます。

一口5,000円ですが、ご都合により何口でも結構です。

同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。

なお、「その年に支出した特定寄附金の合計額-2千円」が年間所得から控除されます。(控除できる特定寄附金は、その年の総所得金額等の40パーセント相当額が限度額になります。)

今後とも、皆様方の一層のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

公益財団法人猪之鼻奨学会 理事・評議員一同

平成26年度事業報告

自平成26年4月1日至平成27年3月31日

公益財団法人猪之鼻奨学会

1. 事業の状況

(1) 研究助成金(150万円)の助成 内訳 各30万円 5件

交付研究者	所属	研究領域	研究題目
高塚博一	千葉大学医学部 附属病院	医療薬学	痔状血管腫に対するチモロールゲルの製剤学的検討とその有用性
山口智志	千葉大学医学部 附属病院	整形外科	超音波エラストグラフィによる、アキレス腱断裂後の治療過程の定量的評価法の確立
土井俊祐	千葉大学医学部 附属病院	地域医療	在宅医療にかかる需要の将来設計と可視化ツールの開発
富永光俊	順天堂大学院 医学研究科 環境医学研究所	環境医学	アトピー性皮膚炎における難治性かゆみの発症機序の解明と治療応用 - 後根神経節細胞とグリア細胞の相互作用の観点から -
鈴木優章	千葉大学大学院 薬学研究院	薬品物理化学	画像診断や光線力学療法を目指したスピロ共役型近赤外吸収・発光素子の開発

(2) 奨学金の貸与 なし

(3) 猪之鼻奨学会会報、13,000部発行

正味財産増減計算書

自平成26年4月1日至平成27年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度(注)	増減(注)	科目	当年度	前年度(注)	増減(注)
I 一般正味財産増減の部				租税公課	6,300	10,450	-5,255
1. 経常増減の部				薬草園整備費	0	100,000	
(1) 経常収益				経常費用計	2,790,269	3,290,193	-499,924
基本財産運用益				評価損益等調整前当期経常増減額	-125,375	-164,878	39,503
基本財産受取利息	504,000	504,000	0	基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	評価損益等計	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0	当期経常増減額	-125,375	-164,878	39,503
受取寄附金				2. 経常外増減の部			
受取寄附金	627,105	1,104,788	-477,683	(1) 経常外収益			
受取寄附金振替額	1,500,000	1,500,000	0	固定資産売却益			
受取利息	24,048	16,527	7,521	土地売却益	0	4,820,000	-4,820,000
雑収益	0	0	0	経常外収益計	0	4,820,000	-4,820,000
経常収益計	2,655,153	3,125,315	-470,162	(2) 経常外費用			
(2) 経常費用				移転費用			
研究補助金	1,500,000	1,500,000	0	事務所移転費用	0	3,000,000	-3,000,000
給料	633,267	658,045	-24,778	経常外費用計	0	3,000,000	-3,000,000
旅費	97760	118310	-20,550	当期経常外増減額	0	1,820,000	-1,820,000
手当・謝金	50,000	50,000	0	当期一般正味財産増減額	-125,375	1,655,122	1,529,747
消耗品費	15,634	18,308	-738	一般正味財産期首残高	2,298,621	643,499	1,655,122
印刷費	173,318	177,350	-4,032	一般正味財産期末残高	2,173,246	2,298,621	-125,375
賃借料	33,673	29,695	3,978	II 指定正味財産増減の部			
通信運搬費	25,482	83,360	-53,900	受取寄附金等	2,573,895	2,591,712	-17,817
会議費	9,741	14,584	-4,843	一般正味財産への振替額	1,500,000	1,500,000	0
雑費	26,190	352,456	-331,109	当期指定正味財産増減額	1,073,895	1,091,712	-17,817
ホームページ関連費	43,200	42,000	1,200	指定正味財産期首残高	69,171,712	68,080,000	1,091,712
事務備品費	9,384	132,485	-123,101	指定正味財産期末残高	70,245,607	69,171,712	1,073,895
記念品費	0	3,150	-3,150	III 正味財産期末残高	72,418,853	71,470,333	948,520
支払手数料	166,320	0	166,320				

公益財団法人

猪之鼻奨学会募金結果報告

千葉大学医学部・薬学部同窓会員

および関係者各位 殿

平素より公益財団法人猪之鼻奨学会の事業につきましては、多くの方々からの深いご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

平成26年度に実施されました募金は、下記のように、大勢のご賛同とご協力が得られました。ここに報告させていただきます。

ご寄付いただきました金員は、当奨学会の事業費として有効に活用させていただきましたと思います。お蔭様を持ちまして平成26年度における助成件数は5件で、総額150万円により研究助成金を交付することができました。

今後も、皆様方の暖かいご支援とご指導をいただきながら当奨学会の発展に理事・評議員共に更なる努力を重ねる所存です。ここに深甚なる謝意を表するとともに、皆様方のご健勝とご発展を祈念申し上げます。

記

募金件数 百十四件

募金総額 三、二〇一、〇〇〇円

平成二十七年五月一日

公益財団法人猪之鼻奨学会
理事・評議員一同

高額寄付者御芳名録(平成26年度)

(敬称略)

るのはな同窓会
七夕の会

薬学部昭和53年
卒業生有志

千葉大学薬友会
小屋 佐久次 群馬県
橋本 英明 東京都
軍司 祥雄 千葉県
渡辺 孝太郎 茨城県
草刈 孝隆 千葉県
高橋 正志 千葉県

平成26年度寄附者名簿(現金)

氏名	県・市
安藤 吉治	神奈川県
鰐坂 秀明	神奈川県
新井 正	東京都
有田 洋右	神奈川県
天野 晋	千葉県
安 徳純	成田市
市川 智彦	千葉県
石井 徹	千葉県
石下 峻一郎	埼玉県
石川 達雄	千葉県
飯田 昭彦	千葉県
飯田 宏美	船橋市
石井 宏明	茨城県
宇野 一真	静岡県
奥田 桂子	千葉県
岡野 照美	千葉県
奥村 康	千葉県
小野寺 美津雄	神奈川県
小野 和則	松戸市
小野 元子	松戸市
軽部 達夫	茨城県
川辺 敏	成田市
蔭山 千枝子	静岡県
唐木 千穂	長野県
菊池 義公	埼玉県
北川 憲一	千葉県

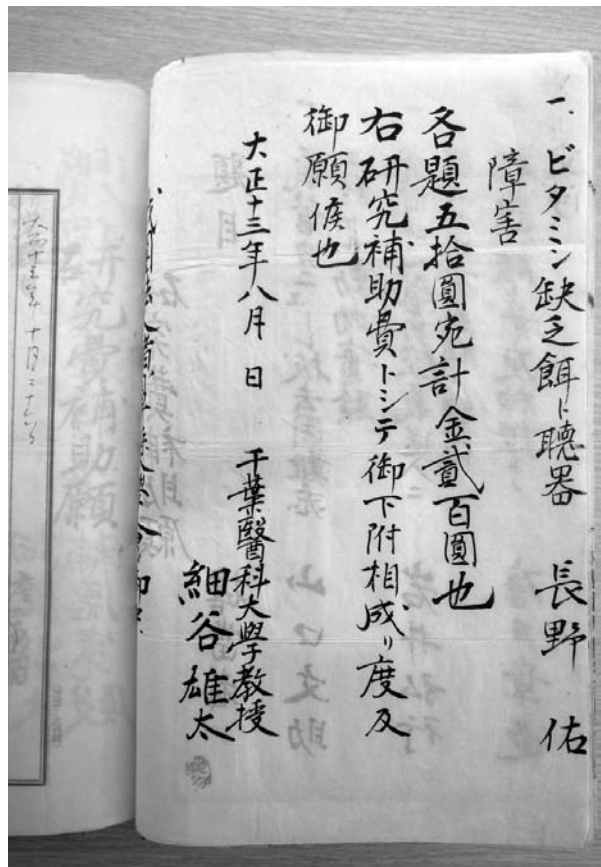
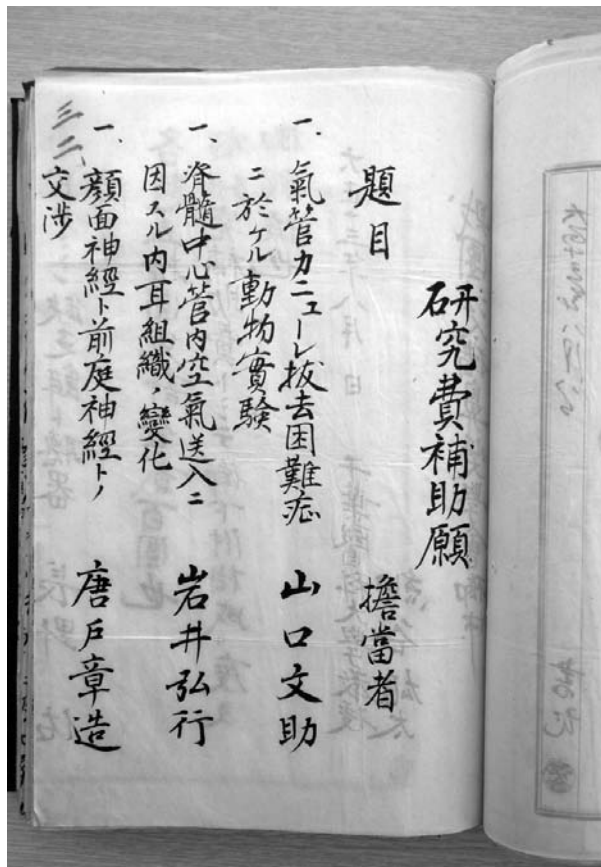
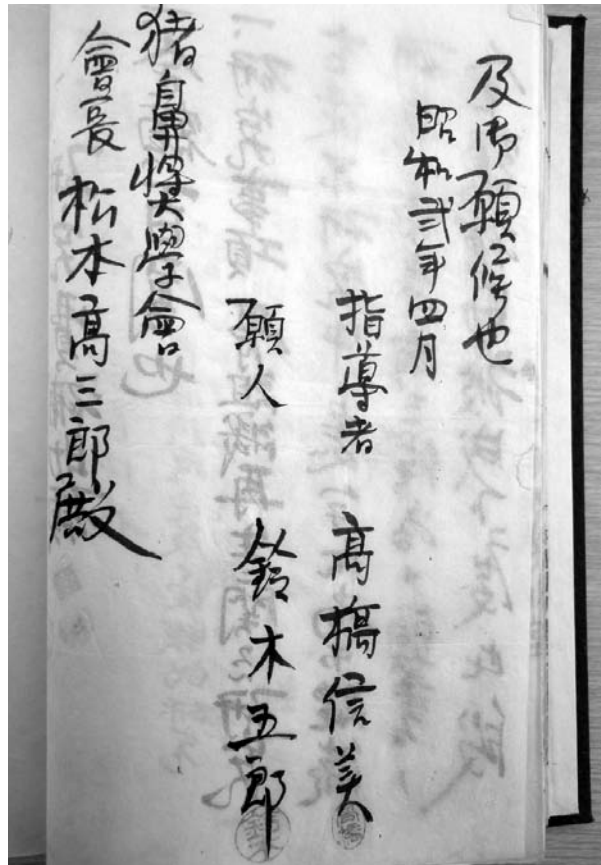
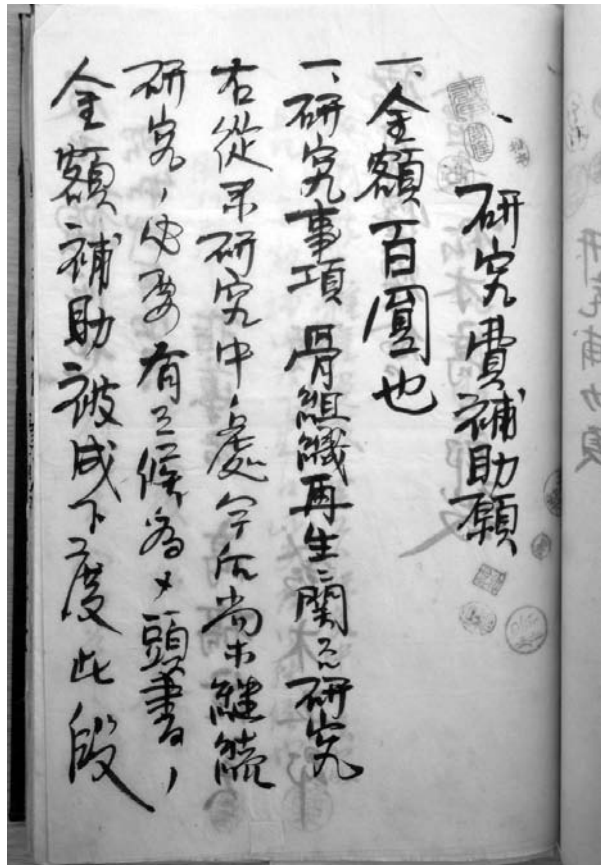
氏名	県・市
岸本 充	千葉県
窪田 叔子	船橋市
葛谷 禮子	岐阜市
宮内 良夫	銚子市
小内 英夫	東京都
小林 弘和	東京都
小林 忠	習志野市
高良 宏明	沖繩県
後藤 信昭	静岡県
幸部 吉郎	埼玉県
三枝 一雄	富津市
三枝 富美代	富津市
佐藤 敏子	東京都
佐久川 輝章	千葉県
清水 雅久	島根県
嶋田 俊恒	千葉県
島崎 淳	千葉県
鈴木 義史	東京都
住吉 宗三	東京都
鈴木 博一	茨城県
鈴木 伸典	長野県
諏訪園 靖	千葉県
砂田 莊一	千葉県
瀬川 襄	東京都
田波 秀文	千葉県
滝口 裕一	千葉県
高瀬 靖弘	千葉県
田所 重紀	茨城県
田島 寛之	静岡県
竹本 直輝	松戸市
武井 稔	習志野市
千葉 胤道	千葉県
加来 俊貞	千葉県
寺島 東洋三	千葉県
堂垂 伸治	松戸市
土佐 寛順	埼玉県
中村 和成	千葉県
中村 和郎	千葉県
中嶋 弘道	夷隅郡
奈良林 剛史	埼玉県
滑川 剛史	千葉県

氏名	県・市
永岡 喜久夫	東京都
中田 正子	京都府
名雲 照一	神奈川県
二村 静子	静岡県
根本 幸一	群馬県
花輪 孝雄	山梨県
林 雅泰	東京都
林 雅意	千葉県
久田 俊和・恵子	長野県
東山 義龍	船橋市
広谷 忠彦	東京都
檜垣 有徳	東京都
藤澤 武彦	千葉県
古木 新	香取市
布施 吉弘	千葉県
古川 齋	千葉県
松村 琢磨	千葉県
前川 岩夫	静岡県
道永 幸治	船橋市
嶺井 進	沖繩県
水鳥川 俊夫	茨城県
武藤 滋	静岡県
武者 廣隆	千葉県
山倉 喜八	茨城県
安田 敏子	千葉県
山田 善重	千葉県
安田 耕作	白石市
谷嶋 俊雄	千葉県
矢田 洋三	千葉県
藪田 光紀	神奈川県
山森 秀夫	千葉県
山本 恵司	千葉県
山本 友子	千葉県
吉野 めぐみ	木更津市
竜 崇正	千葉県
若新 洋子	千葉県
若新 政史	千葉県
渡辺 和夫	千葉県

平成二十七年三月三十一日現在
総合計 三、二〇一、〇〇〇円

猪之鼻奨学会の歴史資料

本奨学会の長い歴史の証左となる貴重な資料の一部をご紹介します。



編集後記

本会の設立は大正4年(1915)です。今年(2015)は創立100周年の記念すべき年です。戦後70年が経ち、大正の時代を知る人も少なくなりま... 本会の事業が、医学薬学を志す多くの若者達を支援してきた実績は、本会が社会へ貢献をなした何よりの証です。米百俵の精神に習い、本会を着実に発展させることが如何に重要かはこの100年の歴史が示すところです。

近年多くの皆様から貴重なご寄付をいただいております。我が国では、諸外国と比較して社会的な経費は税金負担が個人負担の二極化となりがちで、その間を埋める資金の割合が少ないことが指摘されています。例えば、一世帯あたりの寄付金額では、日本は米国の1/50以下であるとの統計があります。文化としてドウネイション(寄付、喜捨、篤志)精神が定着することを期待しつつ、本会への更なるご支援をお願いする次第です。

「情けは人のためならず、善意の心が多鼻の未来をつくる」

(副会長 山本恵司)